

2025年度

心理学部

臨床心理学科

I. 心理学部臨床心理学科教育のめざすもの

心理学部臨床心理学科では、皆さんが以下の能力を修得して卒業することを目指して教育を行っています。これを学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と言います。

臨床心理学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 臨床心理学を核として、心理学的支援、精神保健福祉学、認知科学の専門知識を身につけている（知識・理解）。
2. 心理学的支援の土台となる「自己肯定感」「協働する力」「自己省察力」が備わっている（関心・意欲・態度）。
3. 心理学的支援の柱となる「調査研究力」「コミュニケーション力」「心理的・福祉的援助スキル」を備えている（技能・表現）
4. 大学で修得した態度・知識・技術を地域社会に還元することができる（社会への還元）。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を満たすためには、1年生の時から体系的に学びを積み重ねる必要があります。その理念のもとで教育課程がつくられています。これを教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）と言います。

臨床心理学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

教養教育として3つの科目群を体系的に設け、「基礎科目群」で現代社会を生きるための基礎力、「人文・社会・健康・自然科目群」で現代社会を豊かに生きるための教養、「キャリア科目群」で生涯にわたって自律的に学び続ける力及び社会に貢献できる力の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーで掲げた目標を達成するための専門教育課程編成は次の通りである。

1. 全ての学びの基礎となるアカデミックスキル及び、心理学的支援の土台となる「自己肯定感」「協働する力」「自己省察力」を培う目的で、必修科目として専修基礎科目の中に臨床心理基礎ゼミナールと臨床心理応用ゼミナールを配置する。
2. 心理学的支援、精神保健福祉学、認知科学および、調査研究力、コミュニケーション力、心理的・福祉的援助スキルの基礎力をつける目的で、必修科目または選択必修科目として上記（1）に加えての他の専修基礎科目を配置する。
3. 心理学的支援、精神保健福祉学、認知科学および、調査研究力の専門的な学びを体系的に深める目的で選択科目として専修科目を配置する。
4. コミュニケーション力と心理的・福祉的援助スキルの実践的養成を行う目的で、選択必修科目として専修職能・実習科目を配置する。
5. 上記に加えて他学科科目の履修を認めることで幅広い基礎教養形成への道筋を用意する。

大学では、学生の皆さん自身が卒業要件をしっかりと理解した上で、自分の学びや進路の希望に合わせて、自分で履修科目を選択していきます。

また、資格取得を目指す場合、それぞれの資格に必要な科目修得や関連する条件が多くあります。履修要項にはこれらのことが整理して記載されていますので、注意深く読んでください（履修モデルも参照してください）。

その上で、心配なことや不明瞭なことはそのままにせず必ず教職員に相談するようにしてください。

皆さんが自分らしい履修をし、大学教育を楽しむことを期待しています。

Ⅱ. 心理学部臨床心理学科教育の内容

1. カリキュラムマップ

課程修了の要件を満たして学士の学位を取得するというゴールに向けて、みなさんはどのように学修を進めていけばよいのでしょうか。その道筋を示したものがカリキュラムマップです。

カリキュラムマップは、それぞれの授業科目がどの「教育目標」の実現に関連しているのか、科目を履修していく順序はどうなのか、科目間の関連はどうなっているのかなどが分かるように図式化したものです。次頁の「臨床心理学科カリキュラムマップ」を見てください。

この「カリキュラムマップ」の使い方は2つあります。

(1) ゴールまでの行き方を調べる

みなさんが4年後に「こうなりたい／こういう力をつけたい」と思う目標を考え、それにつながる道を探します。

(2) 興味のあるものの先に何があるのか調べる

シラバスで興味のある授業科目を見つけて「この科目を履修してみたい」と思ったとき、その先にどんな能力を身につけた自分が待っているのかをイメージします。

このように、カリキュラムマップを通して、みなさんは「この科目では、どの部分の能力を鍛えているのか」を知り、「今後どのように科目を選択していけば良いのか」を考える際の参考にすることができます。

心理学部 臨床心理学科 カリキュラムマップ

【教育目標】

- (1) 心理学的支援の土台となる「自己肯定感」「協働する力」「自己省察力」を育成する。
- (2) 心理学的支援の柱となる「調査研究力」「コミュニケーション力」「心理的・福祉的援助スキル」を育成する。
- (3) 文理融合学問としての心理学を中心に幅広い教養を身につける。
- (4) これらをもって、心理学的支援を理解し推進できる人材として社会で長く活躍できる力を育成する。

	1年	2年	3年	4年
教育目標1	臨床心理基礎ゼミナールA 臨床心理基礎ゼミナールB	臨床心理応用ゼミナールA 臨床心理応用ゼミナールB 応用実習	心理学講読演習A 心理学講読演習B	臨床心理学演習 I 臨床心理学演習 II 心理学課題演習 心理実習 ソーシャルワーク演習（専門） ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習 全ての教養科目
教育目標2	公認心理師の職責 臨床心理学概論 心理学研究法 心理学的支援法	心理学実験 心理学統計法 心理的アセスメント 精神分析的心理療法 認知行動療法 精神疾患とその治療A 精神疾患とその治療B 遊戯療法 トラウマと災害の心理学 キャリアカウンセリング論	心理演習 健康・医療心理学	
教育目標3	発達心理学 心理学概論 心理学 人体の構造と機能及び疾病	障害者・障害児心理学 感情・人格心理学 知覚・認知心理学 教育・学校心理学 神経・生理心理学 生態心理学 学習・言語心理学 青年心理学 発達心理臨床A（幼児・児童・青年期臨床） 発達心理臨床B（成人・老年期臨床）	心理アセスメント実習 （知能・性格・発達検査）	
教育目標4	権利擁護を支える法制度 社会福祉の原理と政策A 社会福祉の原理と政策B 社会保障論A 社会保障論B ソーシャルワークの基盤と専門職 ソーシャルワークの理論と方法A 精神保健福祉の原理A 全ての教養科目	社会・集団・家族心理学 司法・犯罪心理学 産業・組織心理学 障害者福祉論 社会心理学 ソーシャルワークの理論と方法B 精神保健福祉の原理B ソーシャルワークの理論と方法（専門）A 現代の精神保健の課題と支援A 全ての教養科目	関係行政論 福祉心理学 裁判心理学 社会福祉調査の基礎 地域福祉と包括的支援体制A ソーシャルワークの理論と方法（専門）B 現代の精神保健の課題と支援B 刑事司法と福祉 地域福祉と包括的支援体制B ソーシャルワーク演習 精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉制度論 全ての教養科目	
				卒業論文

2. 心理学部臨床心理学科卒業要件

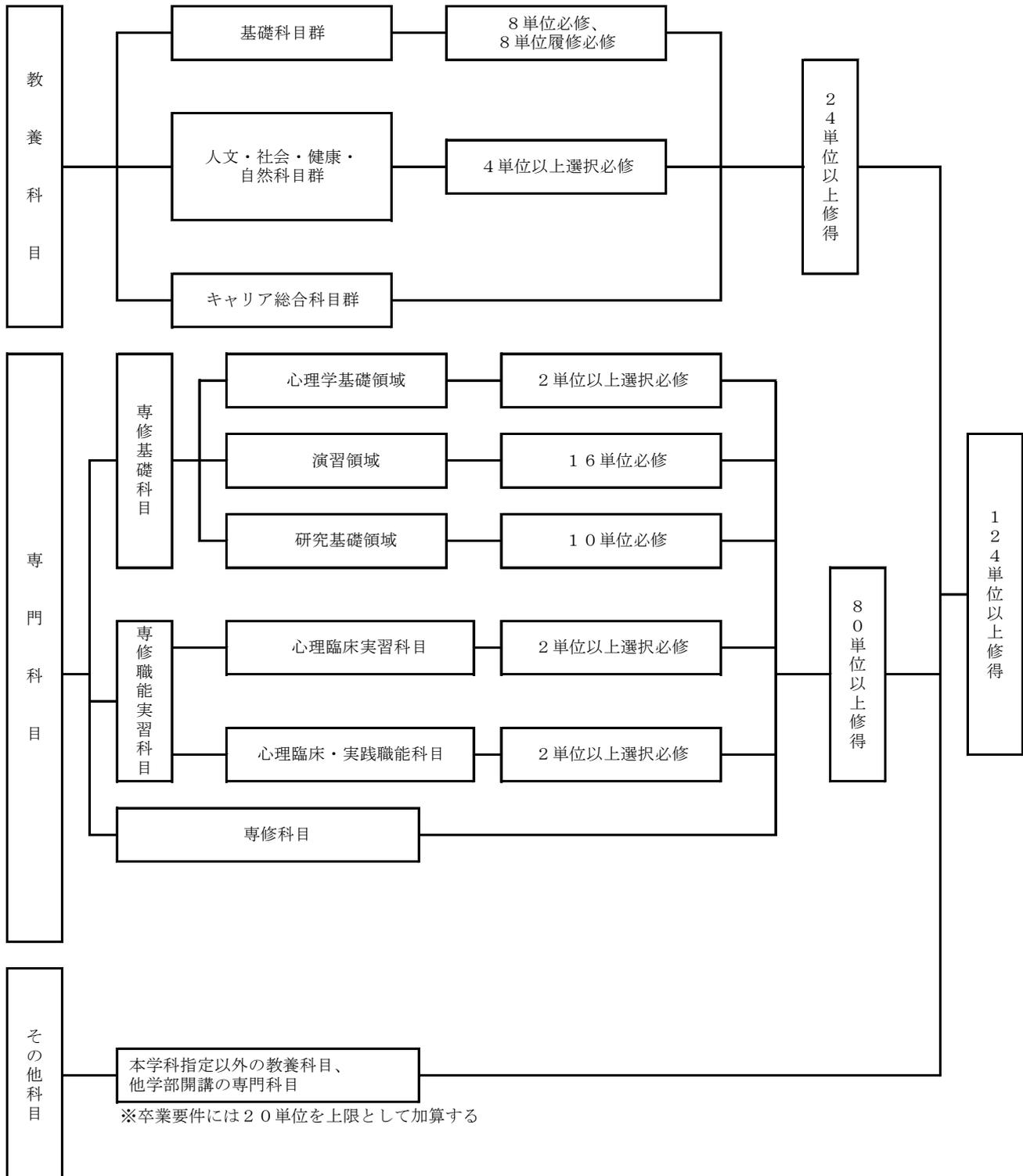
入学から卒業までの間に、学則および履修細則などに定められた科目を学修し、所定の単位を修得しなければなりません。大学での学修はすべて単位制になっています。

すべての科目には特定の単位数が定められており、その科目の授業を受け、試験等に合格した場合にその単位が与えられます。1年間に40単位以上の単位を修得するよう努めてください。

特に4年次は就職活動により授業を欠席する機会が多くなることが予想されますので、3年次終了時までには120単位以上の単位修得を目指してください。

修得単位が以下の要件を充たした場合に、卒業が認定されます。

《2022年度以降入学生に適用》



Ⅲ. 心理学部臨床心理学科専門科目

1. 心理学部臨床心理学科授業科目一覧表

《2022年度以降入学生に適用》 ○の中の数字は単位数です

		1年次		2年次		3年次		4年次		履修方法	
教養科目	基礎科目群	英語ⅠA①	英語ⅡA①	英語ⅢA①	英語ⅣA①					8単位必修	24単位以上
		英語ⅠB①	英語ⅡB①	英語ⅢB①	英語ⅣB①					8単位履修必修	
	アカデミックライティングA② コンピューター基礎A②	アカデミックライティングB② コンピューター基礎B②									
人文・社会・健康・自然科目群	哲学②	日本史②									4単位以上選択必修
	宗教学② 物理学② 地学② 環境論② 言語と数理② 言語と社会② 世界の言語と日本語② 社会学② アジア事情A② アジア事情B②	北海道史② 北海道社会論② くらしと現代経済② 日本近代史② 日本国憲法② 健康科学② スポーツと健康② 現代ビジネス論②									
キャリア科目群	キャリア数学A① キャリアデザイン演習A② 心理学検定演習A、B、D各②	職業と人生A② 企業の経営と働き方② 心理学検定演習C、E各②	職業と人生B② キャリア数学B①	企業の経営と仕事② キャリアデザイン演習B②	職業と人生C② ビジネス数学②	職業と人生D② 精神保健課題演習A②	精神保健課題演習B②	精神保健課題演習C②			
		1年次		2年次		3年次		4年次			
専修基礎科目	心理学基礎領域	心理学概論②	心理学②							2単位以上選択必修	専修科目 80単位以上
	演習領域	臨床心理基礎ゼミナールA② 臨床心理学概論②	臨床心理基礎ゼミナールB② 心理学的支援法②	臨床心理応用ゼミナールA②	臨床心理応用ゼミナールB②	臨床心理学演習Ⅰ②	臨床心理学演習Ⅱ②			16単位必修	
	研究基礎領域		心理学研究法②	心理学統計法② 感情・人格心理学②	心理的アセスメント② 心理学実験②					10単位必修	
専修実習科目	心理臨床実習科目				応用実習②	心理アセスメント実習 (知能・性格・発達検査)②				2単位以上選択必修	専修科目 80単位以上
	心理臨床・実践職能科目	公認心理師の職責②					関係行政論② 心理演習②	心理実習③※通年		2単位以上選択必修	
専修科目	基礎心理学関連領域		権利擁護を支える法制度②	知覚・認知心理学② 学習・言語心理学②	生態心理学② 神経・生理心理学②						専修科目 80単位以上
	発達・教育心理学関連領域	発達心理学②		教育・学校心理学②	青年心理学② 障害者・障害児心理学②						
	社会・産業心理学関連領域	社会福祉の原理と政策A② 社会保障論A②	社会福祉の原理と政策B② 社会保障論B②	社会心理学②	社会・集団・家族心理学② キャリアカウンセリング論② 産業・組織心理学②	福祉心理学②					
	医療福祉領域	人体の構造と機能及び疾病② ソーシャルワークの基盤と専門職②	ソーシャルワークの理論と方法A② 精神保健福祉の原理A②	精神疾患とその治療A② 障害者福祉論② ソーシャルワークの理論と方法B② 精神保健福祉の原理B②	精神疾患とその治療B② トラウマと災害の心理学② ソーシャルワークの理論と方法(専門)A② 現代の精神保健の課題と支援A②	社会福祉調査の基礎② 地域福祉と包括的支援体制A② ソーシャルワークの理論と方法(専門)B② 現代の精神保健の課題と支援B②	健康・医療心理学② 刑事司法と福祉② 地域福祉と包括的支援体制B② ソーシャルワーク演習② 精神障害リハビリテーション論② 精神保健福祉制度論②	ソーシャルワーク演習(専門)⑥※通年 ソーシャルワーク実習指導③※通年 ソーシャルワーク実習⑦※通年			
	心理療法関連領域			精神分析的な心理療法②	認知行動療法② 遊戯療法②						
	臨床心理学研究領域			司法・犯罪心理学② 発達心理臨床A (幼児・児童・青年期臨床)②	発達心理臨床B (成人・老年期臨床)②	心理学講読演習A②	心理学講読演習B② 裁判心理学② 心理学課題演習②				
	卒業論文							卒業論文⑥※通年			

左記の要件を満たすとともに教養科目(本学科指定以外の教養科目を含む)・専門科目(他学科開講の専門科目を含む)を合計124単位以上修得すること

2. 心理学部臨床心理学科履修上の必要事項

臨床心理学科の専門科目は専修基礎科目の演習領域と研究基礎領域が必修、専修基礎科目の心理学基礎領域と専修実習科目が選択必修、専修科目がすべて選択科目であり、卒業論文も選択科目です。しかし、卒業論文を選択するためには臨床心理学演習の単位を取得していなければなりません。以下に「臨床心理基礎ゼミナールA、B」「臨床心理応用ゼミナールA、B」「臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ」と「卒業論文」の履修上の必要事項を記します。

① 臨床心理学ゼミナール

臨床心理基礎ゼミナールAは1年生の前期、臨床心理基礎ゼミナールBは1年生の後期の専修基礎科目であり4年間の学びの基礎を創るための重要な必修科目です。4クラス開講されます。

臨床心理応用ゼミナールAは2年生の前期、臨床心理応用ゼミナールBは2年生の後期の専修基礎科目であり重要な必修科目です。5クラス程度開講されます。

② 臨床心理学演習

臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱは、少人数教育による高い専門的知識を身につけるきわめて重要な科目で、目的と課題意識を明確に持って臨むことが大切です。同時に、臨床心理学演習において研究した成果を土台として、4年次の「卒業論文」へと続くことも意識しておくことが必要です。

- (1) 臨床心理学演習Ⅰ（2単位）は臨床心理学科の3年次前期、臨床心理学演習Ⅱ（2単位）は3年次後期に配当されている**必修科目**です。臨床心理学科全体の演習の中から一つを履修してください。
- (2) 臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱはそれぞれ独立の科目ですが、臨床心理学演習Ⅰを履修しなければ臨床心理学演習Ⅱを履修することができません。また、臨床心理学演習Ⅰを落とした人は臨床心理学演習Ⅱを履修できません。
- (3) 演習登録要件は、**2年次終了時38単位以上修得**していることが必須です。

③ 卒業論文

卒業論文は、下記の要領によって扱います。

- (1) 単位数
卒業論文は、6単位とします。
- (2) 履修条件
臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱを修得していることが条件です。
- (3) 手続
「卒業論文履修（登録）届」（正式なテーマおよび指導教員の署名）を締切までに教育支援課に提出してください。
- (4) 指導体制
学生は定期的に指導教員の指導を受けてください。
- (5) 提出期限
例年12月上旬に提出していただきます。情報ポータルや掲示等で連絡しますので、指示に従って提出してください。
なお、この時刻に遅れた人の卒業論文は、いかなる理由があっても受け取りません（指導教員に直接渡しても無効とします）。又、原則として本人が自ら提出してください。

(6) 様式

- ・表紙は指導教員が指定するものとします。
- ・表紙には、テーマ、指導教員名、提出者氏名、提出年月日を記入してください。

(7) 発表会及び評価

発表会は、例年2月上旬に行います。評価は発表会での発表内容及び関係教員の意見を参考にしています。なお、疾病その他やむを得ない事由によって発表会に出席できない場合は、発表会当日までに願い出てください（事由、証明書等については追試験に準じます）。

(8) 卒論報告集は、卒業論文の研究テーマの内容を要約したものを掲載するものです。必ず提出してください。なお、本報告集は卒論発表会で配布します。

(9) その他

- ・枚数制限（上・下）は特に設けていませんが、指導教員が目安となる枚数を指示します。
- ・過年度に「卒業論文」を履修した人のうち、論文を提出しなかった人あるいは論文を提出したが単位を修得できなかった人（在学生に限る）については、指導教員の許可を得た場合に限り、前期に論文を提出することができます。この場合、発表会は8月下旬に行い、審査会における評価を経て前期末において単位を認定します。
- ・卒業報告集用原稿
指定の方法に従って、テーマ、論文の概要を記載してください。論文概要については余白がないよう文章構成し、パソコンを使用してください。

④ 公認心理師国家試験の受験資格について

(1) 公認心理師とは

2017年に定められた「公認心理師法」に基づく国家資格です。公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。

- ① 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- ② 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- ③ 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- ④ 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

(2) 受験資格取得を目指すことができる学科について

本学においては、心理学部臨床心理学科および人文学部臨床心理学科(2017年9月14日時点で在籍)の学生のみが公認心理師国家試験の受験資格取得を目指すことができます。受験資格を取得するためには、所定の単位を取得したうえで学士の学位を有し、定められた実務経験または大学院に進学し所定の科目を修めることが必要です。

「公認心理師国家試験受験資格カリキュラム」の必要要件と演習実習科目の履修方法

1. 「公認心理師国家試験受験資格」の必要要件

本学が設けている公認心理師国家試験受験資格を目指すためのカリキュラムは次表です。

【公認心理師国家試験受験資格取得を目指すためのカリキュラム】（2022年度以降入学生適用）

要件	指定科目名	本学の開講科目	時間	単位	配当年次	
必修科目	公認心理師の職責	公認心理師の職責	30	2	1	
	心理学概論	心理学概論	30	2	1	
	臨床心理学概論	臨床心理学概論	30	2	1	
	心理学研究法	心理学研究法	30	2	1	
	心理学統計法	心理学統計法	30	2	2	
	心理学実験	心理学実験	30	2	2	
	知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	30	2	2	
	学習・言語心理学	学習・言語心理学	30	2	2	
	感情・人格心理学	感情・人格心理学	30	2	2	
	神経・生理心理学	神経・生理心理学	30	2	2	
	社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	30	2	2	
	発達心理学	発達心理学	30	2	1	
	障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	30	2	2	
	心理的アセスメント	心理的アセスメント	30	2	2	
	心理学的支援法	心理学的支援法	30	2	1	
	健康・医療心理学	健康・医療心理学	30	2	3	
	福祉心理学	福祉心理学	30	2	3	
	教育・学校心理学	教育・学校心理学	30	2	2	
	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	30	2	2	
	産業・組織心理学	産業・組織心理学	30	2	2	
	人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	30	2	1	
	精神疾患とその治療		精神疾患とその治療 A	30	2	2
			精神疾患とその治療 B	30	2	2
	関係行政論	関係行政論	30	2	3	
	心理演習	心理演習	30	2	3	
	心理実習	心理実習	90	3	4	

履修上の留意事項

- (1) 本学においては、心理学部臨床心理学科および人文学部臨床心理学科(2017年9月14日時点で在籍)の学生のみ公認心理師国家試験受験資格取得を目指すための科目を履修することができます。
- (2) 心理学部臨床心理学科と人文学部臨床心理学科では必要な科目が異なるので注意してください。
- (3) 公認心理師の受験資格に必要な本学の開講科目は、卒業までに全て修得してください。卒業後に科目等履修生として取得はできません。
- (4) 指定科目として本学で開講している全ての科目は、卒業要件科目となります。
- (5) 指定科目のうち、本学において2科目で開講している科目は、両科目を必ず修得してください。

2. 「演習・実習科目」の履修方法

「心理演習」、「心理実習」の履修にあたっては以下に定める履修方法に従って履修してください。

(1) 「心理演習」(3年次後期)の履修方法 ※は2024年度以降入学生より適用となります。

履修する前年の後期に申込を受け付けます。方法については、情報ポータルや掲示等で連絡しますので、指示に従って申し込みを行ってください。

指定8科目(1年次開講科目「公認心理師の職責」「臨床心理学概論」「心理学的支援法」2年次開講科目「知覚・認知心理学」「心理学実験」「心理的アセスメント」「学習・言語心理学」「教育・学校心理学」)の単位修得を履修の前提条件とします。これらの科目は、開講年次に履修登録し、単位取得するように努めてください。

・GPA2.5以上

・希望書の提出と教員との面談※

を履修の前提条件とします。

(2) 「心理実習」(4年次通年)の履修方法

履修する前年の後期に申込を受け付けます。方法については、情報ポータルや掲示等で連絡します

ので、指示に従って申し込みを行ってください。本科目は、公欠や特別欠席を含め出席状況により厚生労働省で指定されている時間数を満たさない場合は単位を与えません。4年次開講科目となりますので就職活動等への影響も考慮して履修申込を行ってください。

「心理演習」の単位修得を履修の前提条件とします。

3. 実習費の納入について

「心理実習」の実習費は、履修年次に徴収します。(2024年度実績15,000円※)

また、交通費が別途必要になる場合があるので留意してください。

※実習費の金額は変更になる可能性があります。

4. 履修計画について

公認心理師国家試験受験資格取得を目指す科目を修得するまでには計画的な科目履修を行うことが求められます。履修した科目は単位を落とすことが無いように努力してください。1年次からオリエンテーションに参加し、計画的な履修に努めてください。2年次以降に履修をはじめる場合や単位を落とした場合は時間割の科目が重複することがあります。その場合の保証はしませんので、注意してください。

5. 本学大学院 臨床心理学研究科 への進学について

本学大学院臨床心理学研究科は公認心理師国家試験受験資格取得に対応したカリキュラムとなっています。本学大学院へは、学内選抜である「特別選抜入試」、学外の方も受験する「一般入試(I期、II期)」、社会人経験の方を対象とした「社会人入試」があります。

特別選抜入試での受験を目指す場合、受験資格としてGPAや英語・専門科目等1年次から受講する科目の成績条件がありますので、ガイダンス等でご確認ください。

⑤ 精神保健福祉士国家試験の受験資格について

(1) 精神保健福祉士とは

1997年に制定された「精神保健福祉士法」において定められた国家資格です。精神保健福祉士は、社会福祉学を学問的基盤として、精神保健福祉分野の医療機関や福祉施設・機関などにおいて相談援助などの仕事に携わるソーシャルワーカーです。

その意義は、精神障害者の抱える生活問題や社会問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通して、その人らしいライフスタイルの獲得を目指すことにあります。これまでのわが国の精神障害者は、医療機関に入院している割合が高く、しかもその期間が長期にわたる傾向にあります。そのため、精神障害者の福祉の増進を図る上で、退院を促進することは重要な課題となっており、この分野のソーシャルワーカーが必要とされるようになりました。

同じソーシャルワーカーの国家資格である社会福祉士との違いは、精神障害者を主たる対象とし、精神保健福祉分野の医療機関や福祉施設・機関などで知識や技術を重点的に修めることです。

精神保健福祉士の資格をもつ人の就職先としては、精神科医療機関の他に、就労支援事業所、グループホーム、地域活動支援センター、精神保健福祉センター、役所、保護観察所などです。なお、行政機関で働くためには、公務員試験に合格することが条件となります。今後も精神保健福祉領域の新たな人材として、産業や教育機関を含め、精神保健福祉士の活躍の場は一層増えるものと予想されます。

(2) 精神保健福祉士国家試験の受験資格

「精神保健福祉士法」の規定により、学校教育法に基づく大学において、厚生労働大臣の指定する精神障害者の保健及び福祉に関する科目（指定科目）を修めて卒業した者、その他その者に準ずるものとして厚生労働省令で定める者となっています。

毎年1月下旬～2月初頭に全国統一の国家試験が行われ、これに合格したものが精神保健福祉士の資格を得ます。大学卒業までに所定の単位を修得した者が、試験を受験することができます。国家試験の結果は3月に発表となります。もし、不合格になった場合は、卒業後に再度受験することができます。

受験資格を取得するためには、本学が定める所定の単位を修得し、学士の学位を有することが必要です。同時に、受験資格に必要な指定科目を卒業までに修得することが必須要件となるため、受験資格取得希望者は早い年次からの計画的な履修が必要となります。

(3) 指定科目

精神科医療機関と障害者関係施設を併せた約30日間の実習が含まれます。臨床現場での実習では、精神保健福祉士から指導を受け、精神障害者と直接かかわるため、事前の準備が重要です。そのため、精神保健福祉士国家試験受験資格課程を履修するためには、事前に修めるべき科目の指定や履修要件があります。

「精神保健福祉士国家試験受験資格カリキュラム」の必要要件と演習実習科目の履修方法

1. 「精神保健福祉士国家試験受験資格」の必要要件

本学が設けている精神保健福祉士国家試験受験資格を目指すためのカリキュラムは次表です。

【精神保健福祉士国家試験受験資格取得を目指すためのカリキュラム】（2022年度以降入学生適用）

要件	指定科目名	本学の開講科目	時間	単位	配当年次
必修科目	医学概論	人体の構造と機能及び疾病	30	2	1
	心理学と心理的支援	心理学概論	30	2	1
	社会学と社会システム	社会学	30	2	1
	社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策A	30	2	1
		社会福祉の原理と政策B	30	2	1
	地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制A	30	2	3
		地域福祉と包括的支援体制B	30	2	3
	社会保障	社会保障論A	30	2	1
		社会保障論B	30	2	1
	障害者福祉	障害者福祉論	30	2	2
	権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	30	2	1
	刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	30	2	3
	社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎	30	2	3
	精神医学と精神医療	精神疾患とその治療A	30	2	2
		精神疾患とその治療B	30	2	2
	現代の精神保健の課題と支援	現代の精神保健の課題と支援A	30	2	2
		現代の精神保健の課題と支援B	30	2	3
	ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職	30	2	1
	精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理A	30	2	1
		精神保健福祉の原理B	30	2	2
	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法A	30	2	1
		ソーシャルワークの理論と方法B	30	2	2
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	ソーシャルワークの理論と方法(専門)A	30	2	2
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)B	30	2	3
精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論	30	2	3	
精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論	30	2	3	
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習	30	2	3	
ソーシャルワーク演習(専門)	ソーシャルワーク演習(専門)	90	6	4	
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導	90	3	4	
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習	210	7	4	

履修上の留意事項

- (1) 本学においては、心理学部臨床心理学科および人文学部人間科学科（2021年入学生まで）の学生のみ精神保健福祉士国家試験受験資格取得を目指すための科目を履修することができます。
- (2) 心理学部臨床心理学科と人文学部人間科学科では必要な科目が異なるので注意してください。
- (3) 精神保健福祉士の受験資格に必要な本学の開講科目は、卒業までに全て修得してください。卒業後に科目等履修生として取得はできません。
- (4) 指定科目として本学で開講している全ての科目は、卒業要件科目となります。
- (5) 指定科目のうち、本学において2科目で開講している科目は、両科目を必ず修得してください。

2. 精神保健福祉士国家試験受験資格課程の定員と履修登録

精神保健福祉士国家試験受験資格課程の定員は20名です。精神保健福祉士国家試験受験資格課程の登録にあたっては、面接と成績などを考慮して選考します。選考の時期と方法については、別途通知します。

3. 「演習・実習科目」の履修方法

「ソーシャルワーク演習」、「ソーシャルワーク演習（専門）」、「ソーシャルワーク実習指導」、「ソーシャルワーク実習」の履修にあたっては以下に定める履修方法に従って履修してください。

(1) 「ソーシャルワーク演習」の履修方法

3年次6月に「ソーシャルワーク演習」の申込書を受け付けます。方法については、情報ポータルや掲示等で連絡しますので、指示に従って申し込みを行ってください。履修登録にあたっては、レポート試験と面接を実施し、成績などを考慮して履修者の選考を行います。

「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法A」、「ソーシャルワークの理論と方法B」、「ソーシャルワークの理論と方法(専門)A」及び「ソーシャルワークの理論と方法(専門)B」の5科目の単位修得を履修の前提条件とします。

「ソーシャルワーク演習」の受講時には、「精神保健福祉士国家試験受験資格カリキュラム受講届」を提出してください。

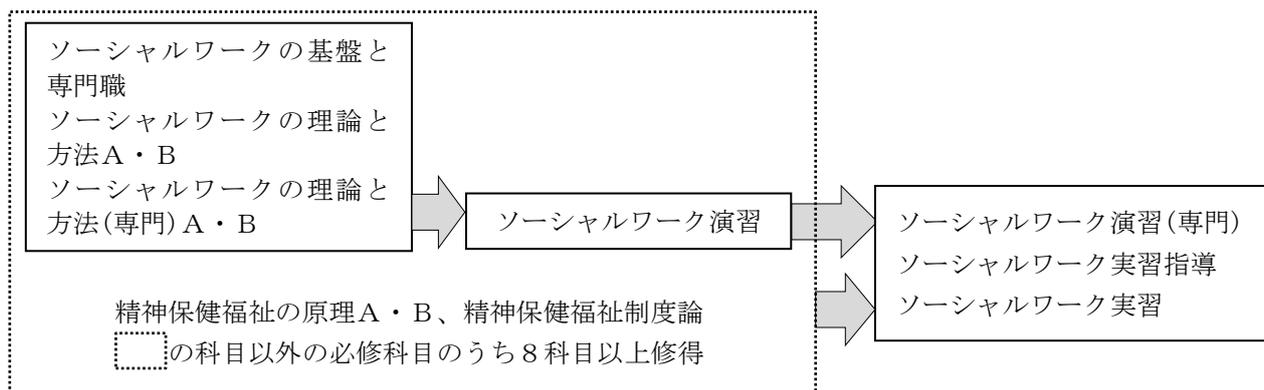
(2) 「ソーシャルワーク演習（専門）」の履修方法

「ソーシャルワーク演習」の単位修得を履修の前提条件とします。

(3) 「ソーシャルワーク実習指導」および「ソーシャルワーク実習」の履修方法

「ソーシャルワーク演習」、「精神保健福祉の原理A」、「精神保健福祉の原理B」、「精神保健福祉制度論」の4科目の単位修得を履修の前提条件とします。

また、上記に加えて、必修科目欄の「本学の開講科目」のうち、8科目以上を修得していることが必要です。



4. 実習費の納入について

「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク実習」の実習費は、履修年次に徴収します。

(※2024 年度実績 50,000 円)

また、交通費や宿泊費、昼食費などが別途必要となる場合があるので留意してください。

※実習費の金額は変更になる可能性があります。

5. 精神保健福祉士国家試験の受験について

受験資格を満たした場合（修得見込みを含む）は、4年次に国家試験（1月下旬～2月初頭）を受験することが出来ます。

精神保健福祉士国家試験の受験申込手続きの詳細は、7月中旬頃に公示される予定です。詳細は、「財団法人社会福祉振興・試験センター」のホームページ（<http://www.sssc.or.jp/>）を参照してください。

なお、4年次に国家試験を受験するためには、本学が発行する「精神保健福祉士指定科目履修見込証明書」の提出が必要となります。指定科目履修見込証明書を発行できるのは、履修登録の結果、年度内に指定科目を修める見込みがあるものに限り、履修登録にあたっては不備のないよう、十分に注意してください。

ただし、見込証明書を発行した者であっても、当年度内に受験資格要件を満たすことができないと判明した場合は、それ以降の証明書を発行しません。

6. 履修計画について

精神保健福祉士国家試験受験資格の取得までには、計画的な科目履修を行うことが求められます。履修した科目は単位を落とすことが無いように努力してください。1年次からオリエンテーションに参加し、計画的な履修に努めてください。2年次以降に履修を始める場合や単位を落とした場合は、時間割が重複することがあります。その場合の保証はしませんので、注意してください。

⑥ 認定心理士資格取得のための要件

「(社)日本心理学会認定心理士」資格認定制度は、1990年に設置されました。これは、「4年制大学における心理学科、またはそれに準ずる課程を修了した人（ないしは、それと同等の学力を有すると認められた人）を対象に、心理学の専門家としての職務を遂行するのに必要な最小限の標準的、基礎的学力と技能を修得していると認定された人に対して与えられる資格」です。この資格を認定された人は「認定心理士」と呼ばれます。

現在は「基礎科目」「選択科目」「その他の科目」の合計36単位以上を取得することが認定の要件です。本学においても、相当する単位を取得した卒業生が認定された実績があります（詳細はゼミナールの担任教員へ確認してください）。ただし、認定の要件は将来変更の可能性があることに留意する必要があります。

なお、(社)日本心理学会認定心理士資格認定委員会が認定する「認定心理士」と、日本臨床心理士資格認定協会が認定する「臨床心理士」とは異なるものです。「臨床心理士」の資格を取得したいのであれば、大学院（修士課程）で2年間学び（第1種指定校の場合）、筆記試験と面接の審査を受けなければなりません。

⑦ 准学校心理士資格取得のための要件

「准学校心理士」とは、「学校心理士」※ に準ずる資格で、「学校心理士」受験を前提とした資格です。「学校心理士」になるには3年間の実務経験（幼稚園、保育所、教育委員会、教育研究所、教育センター、教育相談所、児童相談所、児童センター、保健センター、養護施設等）に加えて、研修を受講し、「学校心理士」を受験することが必要になります。「准学校心理士」資格は、取得後3年は有効です。その後は資格が失効します。ただし、卒業後5年までは「学校心理士」資格の受験と研修の受講はできます。

本学では、「准学校心理士」資格取得のために以下の要件を満たすことが必要となります。

「教育・学校心理学」「発達心理学」「障害者・障害児心理学」「福祉心理学」「心理的アセスメント」「心理学的支援法」を取得した者

在学中（最終年次）に申請が必要になり、同時に諸経費も必要になります。

詳細は教育支援課までお問い合わせください。

※「学校心理士」とは、学校生活における様々な問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングなどを通して、子ども自身、子どもを取り巻く保護者や教師、学校に対して、「学校心理学」の専門的知識と技能をもって、心理教育的援助サービスを行うことのできる方に対して認定する資格です。

履修モデルは段階的かつ体系的履修の標準例を表すものに過ぎないので、これを参考にして学習目的に応じて自ら履修計画を立ててください。

⑥「精神保健福祉士」モデル

精神保健福祉士資格を取得し、医療機関や健康関連企業、福祉施設への進路を導くための履修モデル

主な進路: 医療・福祉関連施設など

区分		1年		2年		3年		4年		卒業要件	
教養科目	基礎科目群	英語 I A 英語 I B 論述・作文A コンピュータ基礎A 英語 II A 英語 II B 論述・作文B コンピュータ基礎B	1 1 2 2 1 1 2 2	英語 III A 英語 III B 英語 IV A 英語 IV B	1 1 1 1					英語8科目 8単位必修	
	人文・社会・健康・自然科目群	社会学	2	哲学	2	宗教学	2				
	キャリア・総合科目群	職業と人生A	2	職業と人生B	2	職業と人生C 職業と人生D 精神保健課題演習A	2 2 2	精神保健課題演習B 精神保健課題演習C	2 2		2 2
	小計		16		8		8				4
教養科目 合計24単位以上											
専修基礎科目	心理学基礎領域	心理学概論	2							2単位以上 選択必修	
	演習領域	臨床心理基礎ゼミナールA 臨床心理学概論 臨床心理基礎ゼミナールB 心理学的支援法	2 2 2 2	臨床心理応用ゼミナールA 臨床心理応用ゼミナールB	2 2	臨床心理学演習 I 臨床心理学演習 II	2 2			16単位必修	
	研究基礎領域	心理学研究法	2	心理学統計法 感情・人格心理学 心理的アセスメント 心理学実験	2 2 2 2					10単位必修	
	小計		12		12		4			0	
専修職能・実習科目	心理臨床実習科目			応用実習	2					2単位以上 選択必修	
	心理臨床実践職能科目									2単位以上 選択必修	
小計		0		2		0			0		
専門科目	基礎心理学関連領域	権利擁護を支える法制度	2								
	発達・教育心理学関連領域			発達心理学 障害児・障害者心理学	2 2	教育・学校心理学	2				
	社会・産業心理学関連領域	社会福祉の原理と政策A 社会福祉の原理と政策B 社会保障論A 社会保障論B	2 2 2 2	社会・集団・家族心理学 社会心理学	2 2	福祉心理学	2				
	医療福祉領域	人体の構造と機能及び疾病 ソーシャルワークの基礎と専門職 ソーシャルワークの理論と方法A 精神保健福祉の原理A	障害者福祉論	2	社会福祉調査の基礎	2	ソーシャルワーク演習(専門)	6			
			精神疾患とその治療 A	2	地域福祉と包括的支援体制 A	2	ソーシャルワーク実習指導	3			
			精神疾患とその治療 B	2	ソーシャルワークの理論と方法(専門) B	2	ソーシャルワーク実習	7			
			ソーシャルワークの理論と方法 B	2	現代の精神保健の課題と支援 B	2					
			精神保健福祉の原理 B	2	刑事司法と福祉	2					
			ソーシャルワークの理論と方法(専門) A	2	地域福祉と包括的支援体制 B	2					
	現代の精神保健の課題と支援 A	2	ソーシャルワーク演習 精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉制度論	2 2 2							
心理療法関連領域		認知行動療法	2								
臨床心理学研究領域											
卒業論文											
小計		18		24		22			16		
専門科目 合計80単位以上											
合計 124単位以上											

4. 心理学部臨床心理学科開講科目一覧表

《2022年度以降入学生に適用》

		授業科目名	単位	配当年次	担当者	開講期	
専修基礎科目	心理学基礎領域	心理学概論	2	1	佐野 友泰	前期	
		心理学	2	1	友野 貴之	後期	
	演習領域	臨床心理基礎ゼミナールA	2	1	小林 茂 佐野 友泰 大宮 秀淑 寺田 香	前期	
			2	1	小林 茂 佐野 友泰 大宮 秀淑 中村 裕子	後期	
		臨床心理学概論	2	1	佐野 友泰 宮崎 友香	前期	
		心理学の支援法	2	1	久藏 孝幸	後期	
		臨床心理応用ゼミナールA	2	2	齊藤 美香 友野 貴之 久藏 孝幸 森 直久 村澤 和多里	前期	
			2	2	齊藤 美香 友野 貴之 久藏 孝幸 森 直久 村澤 和多里	後期	
		臨床心理学演習 I	2	3	大宮 秀淑 小林 茂 齊藤 美香 寺田 香 佐野 友泰 友野 貴之 中村 裕子 久藏 孝幸 宮崎 友香 村澤 和多里 森 直久 山本 彩	前期	
					大宮 秀淑 小林 茂 齊藤 美香 寺田 香 佐野 友泰 友野 貴之 中村 裕子 久藏 孝幸 宮崎 友香 村澤 和多里 森 直久 山本 彩	後期	
		臨床心理学演習 II	2	3	大宮 秀淑 小林 茂 齊藤 美香 寺田 香 佐野 友泰 友野 貴之 中村 裕子 久藏 孝幸 宮崎 友香 村澤 和多里 森 直久 山本 彩	後期	
					大宮 秀淑 小林 茂 齊藤 美香 寺田 香 佐野 友泰 友野 貴之 中村 裕子 久藏 孝幸 宮崎 友香 村澤 和多里 森 直久 山本 彩	後期	
	研究基礎領域	心理学研究法	2	1	伊藤 万利子	後期	
		心理学統計法	2	2	久藏 孝幸	前期	
		心理的アセスメント	2	2	宮崎 友香 手代木 理子	後期	
		感情・人格心理学	2	2	宮崎 友香	前期	
		心理学実験	2	2	伊藤 万利子 友野 貴之 尾山 智子 今井 史	後期2コマ続き	
	専修実習科目	心理臨床実習科目	応用実習	2	2	菊池 浩光 小林 茂 岡部 善也 中村 泰江	後期2コマ続き
			心理アセスメント実習(知能・性格・発達検査)	2	3	宮崎 友香 南 真矢 工藤 綾乃	前期2コマ続き
		心理臨床・実践職能科目	公認心理師の職責	2	1	小林 茂	後期
関係行政論			2	3	大宮 秀淑 本阿彌 はるな	後期	
心理演習			2	3	小林 茂 大宮 秀淑 久藏 孝幸 村澤 和多里	後期	
心理実習			3	4	小林 茂 大宮 秀淑 久藏 孝幸 村澤 和多里	通年	

	授業科目名	単位	配当年次	担当者	開講期	
基礎心理学関連領域	権利擁護を支える法制度	2	1	高杉 学志	後期	
	知覚・認知心理学	2	2	友野 貴之	前期	
	生態心理学	2	2	伊藤 万利子	後期	
	学習・言語心理学	2	2	大谷 和夫	前期	
	神経・生理心理学	2	2	渡辺 隼人	前期	
	発達心理学	2	1	加藤 弘通	前期	
	教育・学校心理学	2	2	村澤 博美	前期	
	障害者・障害児心理学	2	2	南 真矢	後期	
	青年心理学	2	2	村澤 和多里	前期	
	社会・産業心理学関連領域	社会福祉の原理と政策A	2	1	西川 聖子	前期
社会福祉の原理と政策B	2	1	西川 聖子	後期		
社会保障論A	2	1	中村 さやか	前期		
社会保障論B	2	1	中村 さやか	後期		
社会心理学	2	2	名畑 理津子	後期		
社会・集団・家族心理学	2	2	小野 実佐	秋期集中		
キャリアカウンセリング論	2	2	石川 正人	後期		
産業・組織心理学	2	2	宮崎 友香 十川 秀逸	後期		
福祉心理学	2	3	井出 智博	後期		
医療福祉領域	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	1	一戸 真由美	前期	
	人体の構造と機能及び疾病	2	1	伊東 幸枝	前期	
	ソーシャルワークの理論と方法A	2	1	尾形 多佳士	後期	
	ソーシャルワークの理論と方法B	2	2	尾形 多佳士	前期	
	精神保健福祉の原理A	2	1	寺田 香	後期	
	精神保健福祉の原理B	2	2	寺田 香	前期	
	精神疾患とその治療A	2	2	高橋 美帆	前期	
	精神疾患とその治療B	2	2	小林 茂 村澤 和多里	夏期集中	
	障害者福祉論	2	2	久野 真知子	前期	
	トラウマと災害の心理学	2	2	菊池 浩光	前期	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)A	2	2	中村 裕子 寺田 香	後期	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)B	2	3	中村 裕子 田村 志帆	前期	
	現代の精神保健の課題と支援A	2	2	石川 正人	後期	
	現代の精神保健の課題と支援B	2	3	石川 正人	前期	
	健康・医療心理学	2	3	仲野 芳恵	後期	
	社会福祉調査の基礎	2	3	森下 義亜	前期	
	刑事司法と福祉	2	3	加藤 倫子	後期	
	地域福祉と包括的支援体制A	2	3	宮本 雅央	前期	
	地域福祉と包括的支援体制B	2	3	宮本 雅央	後期	
	精神障害リハビリテーション論	2	3	水口 克信	後期	
	精神保健福祉制度論	2	3	田村 志帆	後期	
	ソーシャルワーク演習	2	3	中村 裕子 寺田 香	後期	
	ソーシャルワーク演習(専門)	6	4	中村 裕子 寺田 香 高野 和美	通年	
	ソーシャルワーク実習指導	3	4	中村 裕子 寺田 香 高野 和美	通年	
	ソーシャルワーク実習	7	4	中村 裕子 寺田 香 高野 和美	通年	
	心理療法関連領域	認知行動療法	2	2	宮崎 友香 山本 彩	後期
		遊戯療法	2	2	岩瀬 貴嗣 手代木 理子	後期
		精神分析的心理療法	2	2	斉藤 美香 村澤 和多里	前期
	臨床心理学関連領域	司法・犯罪心理学	2	2	佐藤 千裕	後期
		発達心理臨床A(幼児・児童・青年期臨床)	2	2	米島 広明	前期
発達心理臨床B(成人・老年期臨床)		2	2	佐藤 至英	後期	
心理学講読演習A		2	3	友野 貴之	前期	
心理学講読演習B		2	3	友野 貴之	後期	
心理学課題演習		2	3	森 直久	後期	
裁判心理学	2	3	森 直久	前期		
卒業論文	卒業論文	6	4	大宮 秀淑	通年	
				菊池 浩光		
				小林 茂		
				斉藤 美香		
				佐野 友泰		
				友野 貴之		
				久藏 孝幸		
				宮崎 友香		
				村澤 和多里		
				森 直久		
山本 彩						

専修科目